

小 学 校

平成23年度

# 教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

## 目 次

◆ 研究主題	
I 主題設定の理由	1
II 研究の方法	1
◆ 中学年分科会	2
I 主題設定の理由	2
II 研究の仮説	2
III 研究構想図	3
IV 研究の内容	4
V 実践事例	7
VI 成果と課題	13
◆ 高学年分科会	14
I 主題設定の理由	14
II 研究の仮説	14
III 研究構想図	15
IV 研究の内容	16
V 実践事例	20
VI 成果と課題	24

## 社会的事象を主体的に追究し、自らの考えを深めながら 表現する児童を育てる指導の工夫

### I 主題設定の理由

平成23年3月11日に起きた東日本大震災は、日本国内に大きな被害をもたらし、政治的、経済的、社会的に様々な問題を投げかけることとなった。教育現場においても、不測の事態における対応力を求められる事態となったことは、記憶に新しい。被災地においては、相互に支え励まし合い、自らが社会（地域の）の一員として、自分のできる役割を果たそうとしている子供たちの姿が多く見られた。この様子は、「東日本大震災に係る内閣総理大臣及び文部科学大臣からのメッセージ（平成23年4月6日）」からも知ることができる。

今後の復興の担い手となるのは、現在の子供たちである。その子供たちに対し、社会の一員としての役割を果たす力を育てていくことが望まれている。教育に課せられた使命は大きい。

先だつての中央教育審議会答申（平成20年4月18日「教育振興計画について」）において、「教育の使命として、個人が自立的に社会に参画し、相互に支え合いながら、その一員としての役割を果たすために必要な力を養うことを、今後一層重視する必要がある。」ということが述べられている。また、今回の学習指導要領社会科の改訂の趣旨を見てみると、「我が国の国土や歴史に対する愛情をはぐくみ、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるとともに、持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを重視する方向で改善を図る。」といったことが述べられている。どちらも、子供たち自らが社会に参画していく力を育成していくことが重視されている。教科の学習において、社会科教育が担う役割はとても大きい。

さらに、社会科の改善の具体的事項では、「問題解決的な学習」、「基礎的・基本的な知識・技能の習得とその活用」、「必要な情報から読み取ったことを比較・関連付け・総合しながら再構成する学習」、「互いの考えを伝え合うことにより、考えを深めていく学習」の充実が求められている。そして、目標の改善においては、全学年に共通して「これまでの『調べたこと』に『考えたこと』を加え、『考えたことを表現する』ことを一層重視した。」と明記されている。

一方で、社会科における指導の実態や児童の様子を見てみると、「社会科は、指導内容をどう教え、どのように考えさせ、どう表現させたらよいか具体的によく分からない。」といった教師の声や、身に付けた知識が断片的なものにとどまり、それらを活用して自分の考えを構築させていくまでには至っていないといった児童の実態がある。

これらのことから、児童に次のような態度や能力を身に付けさせる必要があると考えた。まず、児童が社会的事象を自分との関係で捉え、よりよく社会に関わり、主体的に問題解決に取り組んでいこうとする態度である。次に、児童が基礎的・基本的な知識を生かし、調べたことから必要な情報を読み取り、比較・関連付け・総合させながら自分の考えを構築し、自分の言葉で伝え合うことにより、互いの考えを広げ、深めていくための能力である。その際に言語活動を中心とした表現の場を充実させ、よりよく自分の考えを表現する能力を身に付けさせたい。それが、児童自らが社会の一員としての自覚や自分なりの考えをもちながら、社会についての理解を深め、進んで日本の復興や発展に尽くし、よりよい未来を考えていく態度や能力の育成につながると考える。

以上のことを踏まえ、東京都教育研究員小学校社会部会では、社会の要請に応え、課題を解決していくためには、「社会的事象を主体的に追究する」ことが必要であり、その上で「自らの考えを深めながら表現していく」力を付けることが求められていると考え、研究主題を設定した。

### II 研究の方法

東京都教育研究員小学校社会部会では、学習指導要領の内容や発達段階を考慮して中学年部会と高学年部会の分科会を設定した。そして、分科会ごとに研究主題を設定し、研究仮説、研究構想図を構築した。さらに、それらを基に指導計画を立て、検証授業を行った。主体的に問題解決しようとする児童の姿、考えを深めながら表現する児童の姿などを明確にし、児童の変容を通して指導方法を分析、検討、修正していくことで、実践的に研究を進めていくこととした。

**「地域の社会的事象を自分のこととして捉え、自分なりの  
考えを深めながら表現する児童を育てる指導の工夫」**

**I 主題設定の理由**

第3学年及び第4学年の社会科では、自分たちの住んでいる地域社会の学習を通して、社会生活についての理解を図り、地域社会の一員としての自覚をもち、地域社会に対する誇りと愛情を育てることを目標としている。そのためには、地域の社会的事象を観察や調査などをして調べ、社会的事象の特色や相互の関連などについて考え、その意味や価値を自分なりの言葉で表現することが大切である。

しかし、中学年分科会が行った実態調査や日々の指導を振り返ると、児童は見学や取材などの調査活動を意欲的に行ってはいるが、考えを深めたりまとめたりする学習については事実の把握にとどまり、地域の社会的事象の意味を考え、自分との関わりに気付くまでには至っていない。これは、次に挙げる指導が十分に行われていないことが原因であると考えた。

- ・ 地域の社会的事象を自分の問題として追究させる指導
- ・ 地域の社会的事象の比較・関連付けなどをして、意味を考えさせる指導
- ・ 互いの考えの交流を通して、考えを深めさせる指導

そこで、これらの課題を改善するため、児童に次のような態度や能力を身に付けさせる必要があると考えた。

まず、児童が興味・関心や問題意識をもち、地域の社会的事象を自分との関係で捉える態度である。それが、自分のこととして問題解決に取り組み、地域のよさに気付き、大切にしていこうとする態度の育成につながると考える。

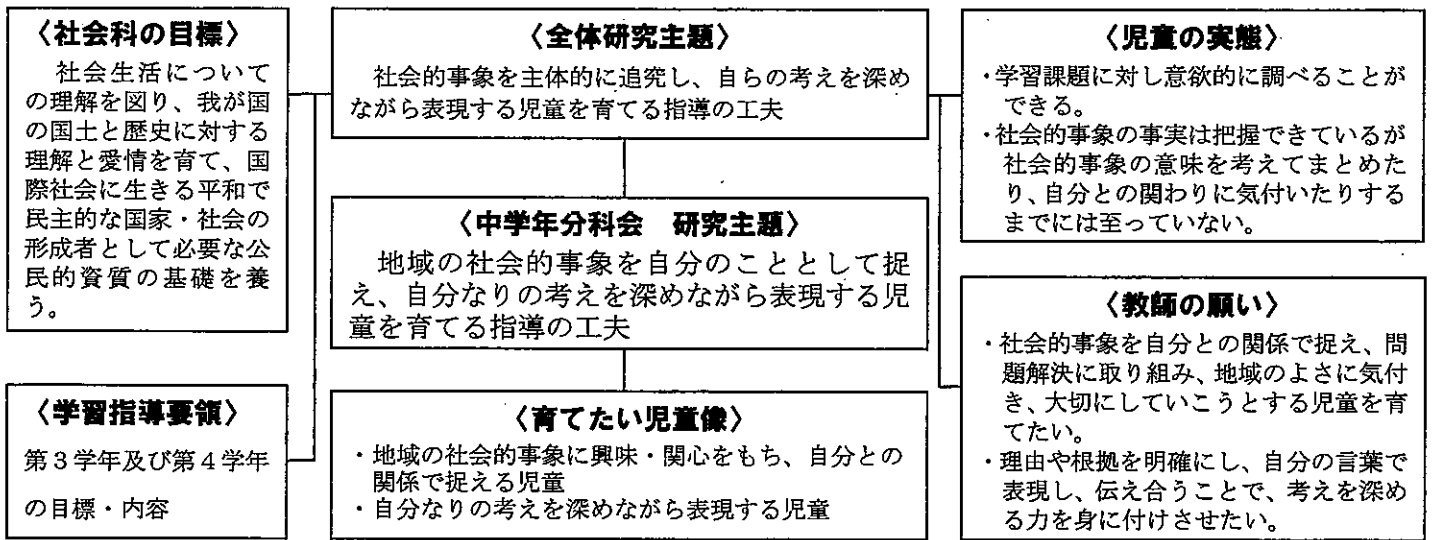
次に、児童が理由や根拠を明確にしながら地域の社会的事象の特色や相互の関連などについて考え、自分なりの言葉でまとめ伝え合い、表現する能力である。それが、地域の社会的事象の意味について考えたことを再構成し、自分なりの考えを深めながら表現する能力の育成につながると考える。その際、児童が、習得した知識や概念を関連付けて活用し、考えを深め、表現できるように、表現の場や方法を工夫、充実させることが重要である。

以上のことを踏まえ、中学年分科会では「地域の社会的事象を自分のこととして捉え、自分なりの考えを深めながら表現する児童を育てる」ことを目指し、研究主題を設定した。

**II 研究の仮説**

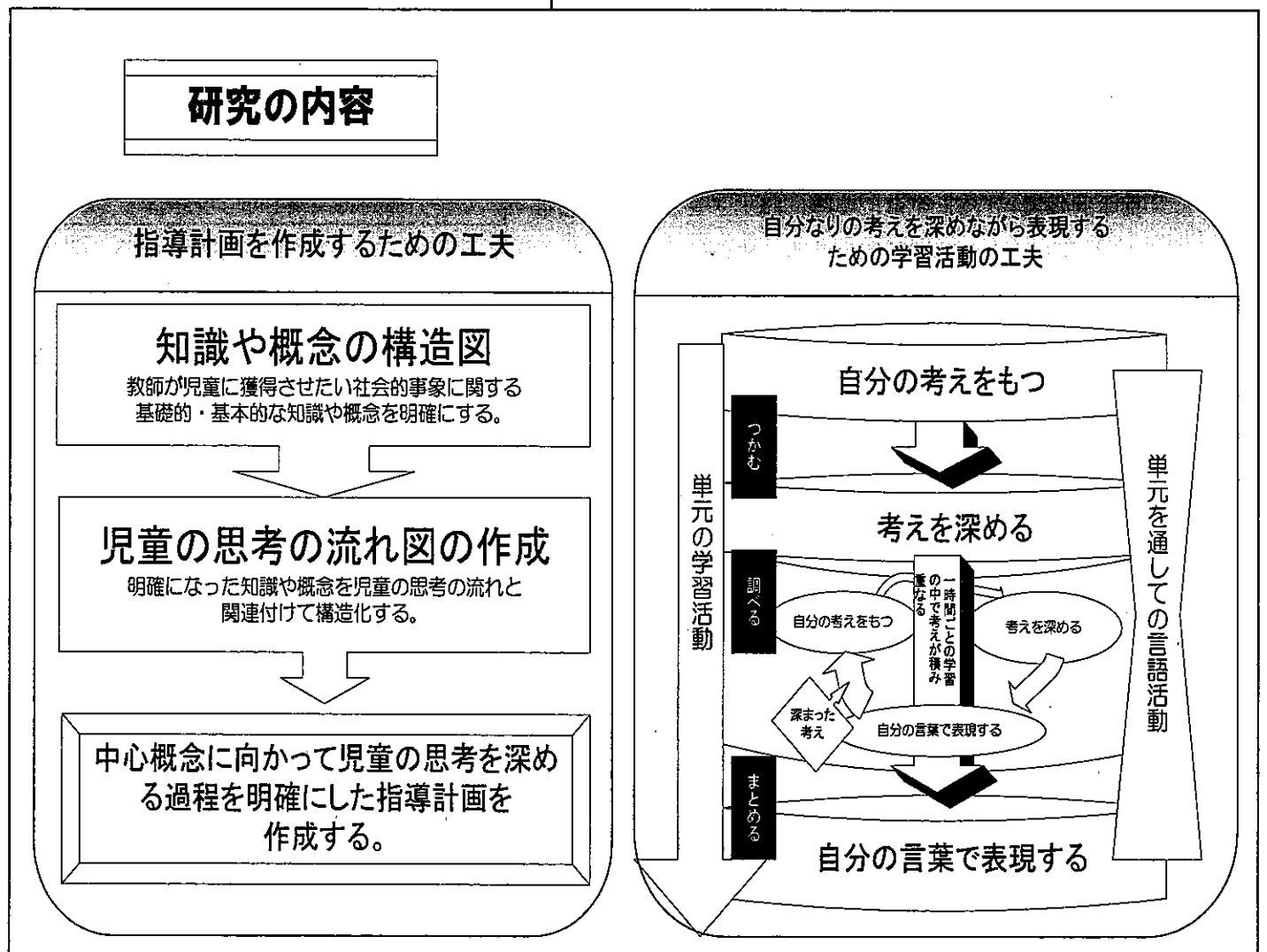
児童が地域の社会的事象と自分との関係に気付き、その特色や相互の関連などについて考え、表現するための手だてを工夫することによって、地域の社会的事象を自分のこととして捉え、自分の考えを深めながら表現する児童が育つであろう。

### III 研究構想図



**〈研究のねらい〉**  
児童が地域の社会的事象を自分のこととして捉え、自分なりの考えを深めながら表現するために指導計画や学習活動をどのように工夫したらよいかを明確にする。

**〈研究の仮説〉**  
児童が地域の社会的事象と自分との関係に気づき、その特色や相互の関連などについて考え、表現するための手だてを工夫することによって、地域の社会的事象を自分のこととして捉え、自分の考えを深めながら表現する児童が育つであろう。



#### IV 研究の内容

##### 1 指導計画を作成するための工夫

中央教育審議会答申（平成20年1月）では、「社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得し、それらを活用する力や課題を追究する力を育成する観点から各学校段階の特質に応じて、習得すべき知識、概念の明確化を図る」と述べられている。地域の社会的事象を自分のこととして捉え、考えを深めながら表現していく児童を育成するために、まず、教師が児童に学ばせる知識や概念を整理し、児童の思考の流れに沿った指導を行う必要があると考えた。そこで、本分科会では、「知識や概念の構造図」を作成し、教師が児童に獲得させたい社会的事象に関する知識や概念を明確にした。そして、明確になった知識や概念と中心概念に向かっていく児童の思考の流れとを関連付けて構造化し、思考の深まりの過程を明確にした指導計画を作成することにした。

##### (1) 知識や概念の構造図

単元の目標を達成するために、教師が児童に理解させたい内容や使用する教材、課題などを考えたり調べたりする中で、必要な知識や語句を明確にしたものが知識や概念の構造図である。構造図は上位に「中心概念」、中位に「具体的知識」、下位に「用語・語句レベルの知識」として設定する。

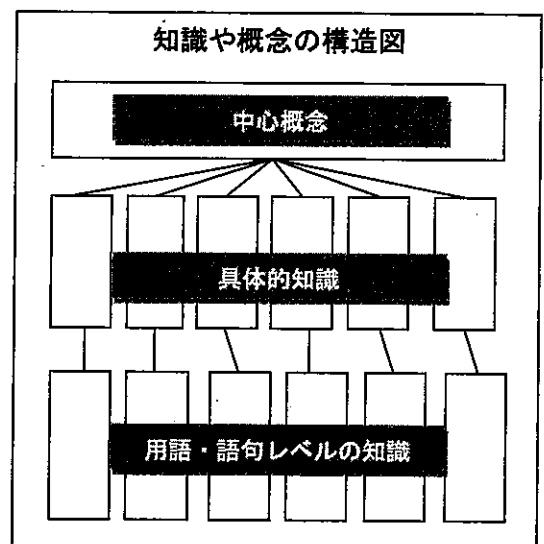
「中心概念」とは、社会的事象の特色や役割、社会の様子や傾向などを表現したものであり、単元の学習を通して最終的に児童に獲得させたい知識である。抽象的な内容であるため、それを導き出すためには具体的な知識を基にして思考したり判断したりする必要がある。

「具体的知識」とは、児童に実際に調べさせたり考えさせたりすることによって学び取らせる、社会の中に目に見える形で存在している内容の知識である。調べさせる知識とも言えるが、あくまで「中心概念」を支える知識であり、それを獲得させるための思考、判断の基になるものである。

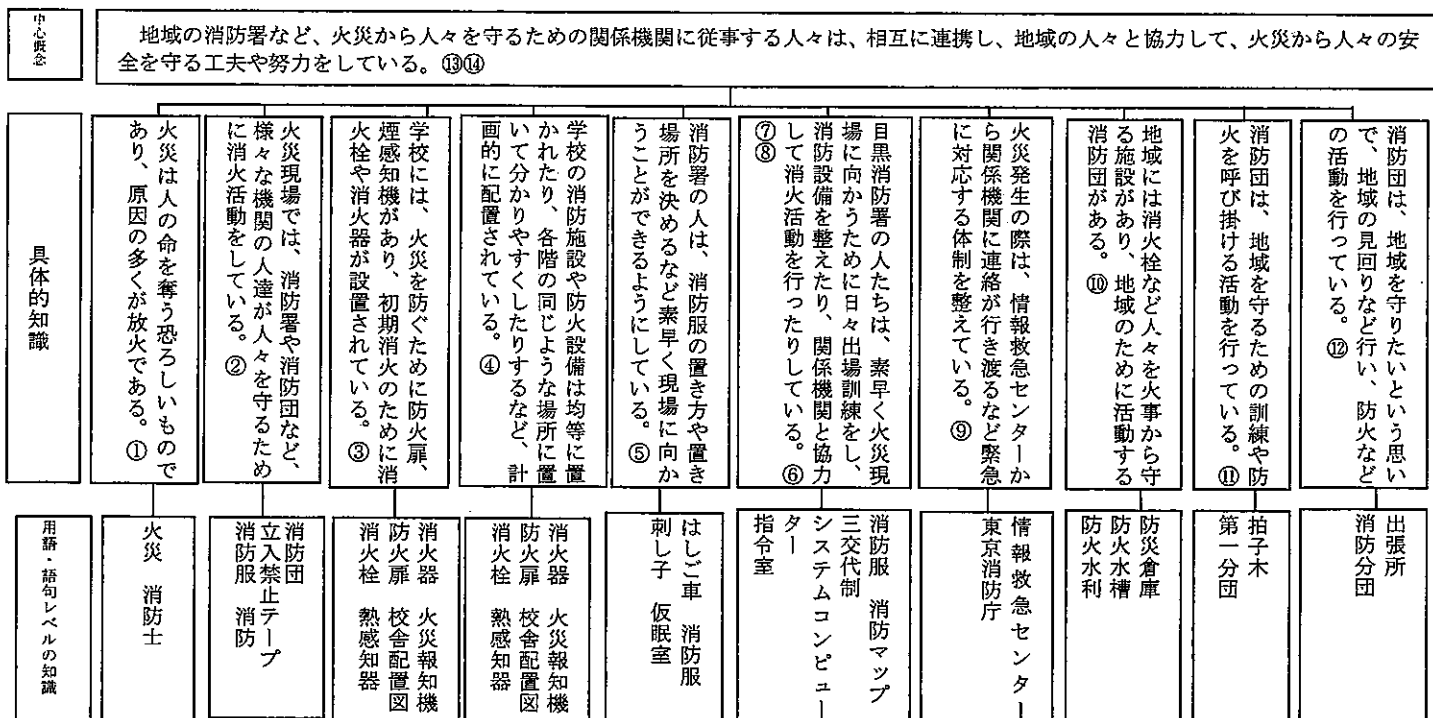
「用語・語句レベルの知識」とは、それぞれの「具体的知識」を調べ、理解するときにより活用されるものである。社会科の場合、これらの多くが社会に関する言葉であることから、習得しておくことで社会科の学習の理解が深まる。

「中心概念」を頂点に、その下に「具体的知識」を位置付ける。その際、1単位時間ごとに具体的知識を一つずつ整理することを基本とし、本時のねらいや評価と関連させて記述した。小単元の指導計画で指導する順に左から右に並べるとともに、指導する時間を丸数字で書き込んだ。次にそれぞれの「具体的知識」の下に「用語・語句レベルの知識」を位置付ける。

このように知識や概念を構造化し、児童に「何を」調べさせるのか、「何を」考えさせるのかを明確にすることで、単元を通して確実な知識を習得させる指導ができると考えた。知識や概念の構造図を具体的に作成したものが右の図である。



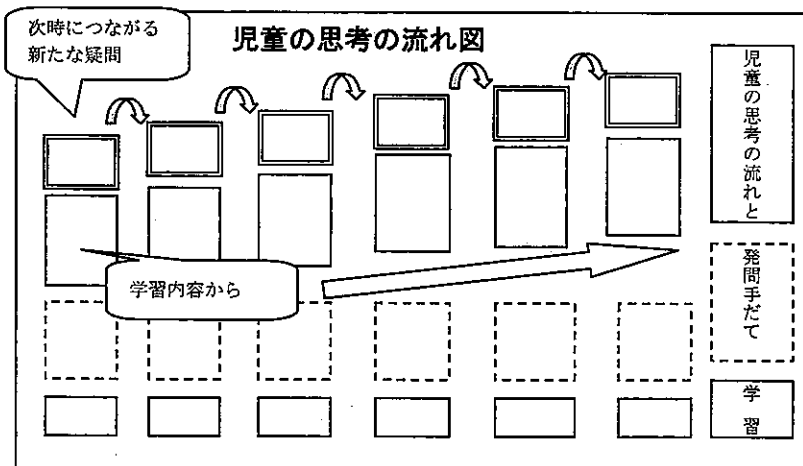
第4学年単元「安全なくらしー火災をふせぐ仕事ー」知識や概念の構造図



(2) 児童の思考の流れ図

「知識や概念の構造図」を基にして指導計画を作成することは大切なことであるが、これだけではどのように児童の思考を深めればよいか、1時間の中でどのような発問や手だてをすればよいのかが分かりづらい。

そこで、児童の思考が中心概念に向かって1時間ごとに積み重なっていく過程を具体的に示したものが必要であると考えた。これを図に表したものが「児童の思考の流れ図」である。



まず、1時間のねらいに迫った児童の思考がどのようなものなのかを明確にする。次に、その思考を導くための発問や学習活動の具体的な手だてを考える。その結果、児童から出てきた思いや新たな疑問を次の時間につなげられるようにする。児童の思考を単元を通して中心概念へと積み重なっていくように右上がりの形で構成し、思考の深まりを表すようにした。「学習活動」「発問・手だて」「児童の思考の流れ（その時間のねらいに迫った思考・次の時間につながる新たな疑問や思い）」の3点を図式化することによって、思考のつながりを構造的に捉えられる。

4年生の「安全なくらしー火災をふせぐ仕事ー」の実践では、地域における防火や消火の仕組みを考えさせるために、消防団の存在に気付かせ、消防団の仕事に対する新たな疑問を生じさせる(10時間目)。次の時間に消防団に実際に話を聞くことで、消防署の人と同じように地域の人を守りたいという思いをもって活動していることに気付かせ(11時間目)、思考を深めていくという流れである(実践事例 P.10 参照)。

また、思考の流れ図を作ることによって、指導計画を立てる際に、児童の思考の流れに合わせて計画を立てることができる。また、思考の流れを具体的な児童の言葉として示すことで、授業の評価にも役立つと考えた。

## 2 自分なりの考えを深めながら表現するための学習活動の工夫

自分の考えをもつ

自分なりの考えを深めながら表現する児童を目指すため、本分科会では、単元の最初に、児童一人一人に「自分の考えをもたせる」ことが大切であると考えた。そのために、児童の住む地域や、児童の生活を支えている身近な人々を学習材として取り上げ、これまでの生活体験等を想起させる。また、学習問題に対する予想を立て、調べさせる。その際、地域の社会的事象に対する自分なりの考えに根拠をもって説明できるようにさせたいと考えた。

考えを深める

自分なりの考えを深めさせるために、児童同士、互いに調べたことや考えたことを交流させる場を設ける。児童が自分の考えを出し合い、相手の考えを聞き議論する中で、自分の考えに自信をもち、友達の見解と比較し、関連付け、新たな考えを構築し、より一層自らの考えを深め、知識を習得することができる。これらの活動は、調べる学習活動の中でも、下記の図のようにして一時間ごとのような短い単位でも、繰り返し取り組むことにより思考が深まり、児童同士で協働的に知識や概念の習得ができると考える。

話合いの場面では、話合いの形態を工夫したり、より興味をもって進め、話合いの方向性を示せるような補助的な資料を提示したりする。

- ・前時からの疑問
- ・既習の想起
- ・児童が自ら調査した事項
- ・身近なことの想起
- ・地域の教材から
- ・教科書・資料集から

自分の考えをもつ

考えを深める

深まった考え

自分の言葉で表現する

○明確な課題の設定

- ・児童に話合いの必然性をもたせる。

- ・補助的な資料の提示

○視点を明確にした話合い

- ・自他の意見を比較する  
(共通点や相違点を見付け、分類する)

- ・関連付ける。

- ・価値判断、意思決定

○互いに学び合うための学習環境

深まった自分なりの考えを再構成させて、相手に分かる言葉で表現する。

- ・習得した知識や概念をキーワードにして適切に用いたまとめ
- ・他者の考えを生かしたまとめ
- ・自分の考えの根拠を明確にしたまとめ
- ・考えが変容した理由を明確に話す。

自分の言葉で表現する

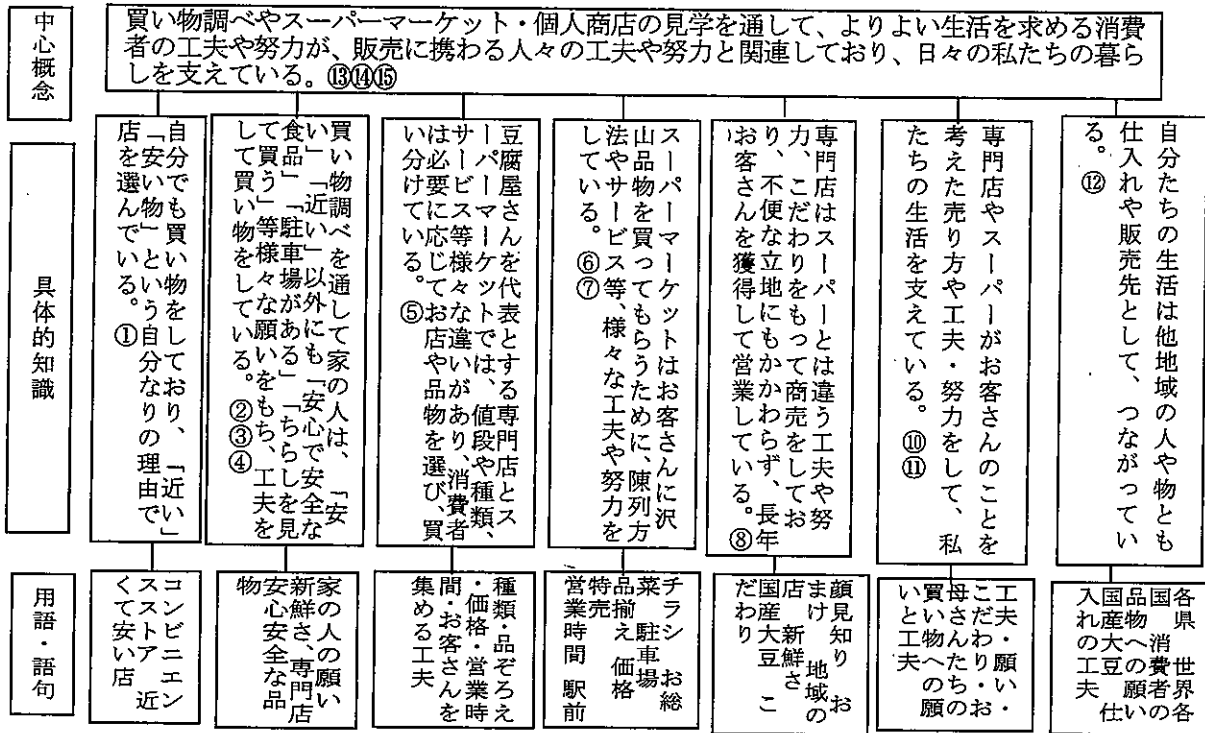
単元の最後に、深められた自分なりの考えを、「自分の言葉でまとめる」作業を行い、自分の思考の変容を感じられるようにする。まとめの方法として、手紙やポスター、パンフレット、新聞等にまとめる事が考えられるが、その際、相手になりきって書く、手紙にして書く、キーワードを決めて書くなど、まとめ方が明確であると、より自分のこととして身近に地域を捉えられるようになると考える。また、児童が自分の思考の過程を振り返りやすくさせることができる。

以上のような学習活動の工夫を行い、児童の考えを深めながら表現する学習過程を設定した。この学習過程を繰り返していけば、児童が自ら進んで調べたり、考えたりして自分なりの考えを深めながら表現するようになると考える。





(2) 知識や概念の構造図



(3) 実践記録

ねらい	○主な学習活動	●学習活動の工夫・実際の児童の反応 →検証授業後の分析 (波線は知識・概念の構造図との関連) (下線は思考の流れ図との関連)
自分の考えをもつ	①自分たちの家庭では普段どこで買い物をしているのかを発表し合うことを通して、買い物の仕方について調べる意欲をもつ。 ②自分たちの家庭での買い物について調べる計画を立てる。 (買い物調べをする。)	●生活経験の想起・地域を自分のこととして捉えさせるために、身近な素材を教材化する。 ・自分たちの買い物は「近く」のお店で「安い」ものを選ぶようにしている。 ・家の人の買い物にもよく一緒に行く。 ・どこで「なにを」「いくら」「なぜそのお店を選んだのか」について質問することにした。 →児童の生活経験から学習を開始した。単元当初、児童は自分の体験を基に、お店選びは「近くて安い」店という観点だと考えていた。買い物調べは「どこで」「何を」「いくら」の他に、「どうしてその店を選んだか」を記録させたことにより、消費者のお店選びのポイントを捉えることができた。家庭での調査活動を位置付け自分の考えをもたせる手だてとした。
	③④家庭の買い物の様子について調べ、その結果を表やグラフにまとめて、買い物の仕方の傾向や、よく買い物に行く店のよさについて捉える。	●比較関連付けてグラフを読み取ることを通して思考を深める。 ・家の人とは自分たちと違う理由で店を選んでいることが分かった。安心・安全で選んでいる事が分かった。駅前や車で行けるというのも多かった。「スーパー」が一番で「コンビニ」が二番「専門店」は3番という順番だった。 →「店を選ぶ理由」以外にも「商品を選ぶ時に気を付けていること」や「保護者にアンケートし大きく構造紙にまとめた。単元の後半で店のお客さんを集める工夫や商品を仕入れる時の工夫と消費たての買い物への願いが比較・関連付けしやすくなり、有効な手だてだった。グラフを作成する時にはスーパー・コンビニ・専門店の三つに分けた。地域には専門店があることを意識付けた。
	⑥様々な豆腐が売られていることを知り、学習課題を設定する。店の工夫を予想し、調べることを明らかにし、計画を立てる。	●意外な社会的事象との出会いから学習課題作り●地域の社会的事象についての追究 ・スーパーや豆腐屋に、なぜあれほど多くの種類の豆腐があるのだろうか。 ・どうしてスーパーだけでなく、専門店にも行くのか知りたい。 ・たぶんおまけをしている。配達をしている。 →「なぜ豆腐にはこんなに種類があるのか」「なぜ専門店とスーパーで売られているのか」「何か違いがあるのか」等疑問をもつた。この時間までは消費者側から見て進めてきた。学習課題を設定する際に、販売者側から見て工夫や努力の観点やどんな質問をしたかやどんな質問をしたかやキーワードでまとめた後に学習課題を設定した。またスーパーの挿絵を基に見学してどう生かすのか見学の視点を明確にしてから実際に見学した。

「スーパーや豆腐店は、それぞれどのような工夫や努力をして、お客さんをたくさん集めているのだろうか」

考えを深める

⑥⑦⑧⑨見学をして、店ではお客さんのために様々な工夫をしていることに気付く。

○豆腐店はどのような工夫や努力をしているかインタビューする。  
○スーパーはお客さんが買い物をしやすくしたり、お客さんを沢山集めるためにどんな工夫や努力をしているかノートにまとめる。

<自分の考えをもつ>

⑩スーパーや個人商店がお客さんのことを考えた売り方や工夫・努力をしていることに気付く。

○買い物をするならスーパーと専門店のどちらのお店がよいか話し合う。

<自分の考えをもつ>

○豆腐屋は駅から遠く、値段が安くはないのに、長年続いていて多くのお客さんが来るのか考える。

<考えを深める>

○お家の人の買い物への願いと比較して考える。

<考えを深める>

○今日の授業で考えたことを書く。

<自分の言葉でまとめる>

⑪お客さんへのインタビューを通し、家の人やお客さんの店を選ぶ理由と店の工夫や努力を比較・関連付けることができる。

○それぞれのお客さんに店選びの理由をインタビューしてくる(VTRに録画しておく)。

<考えを深める>

⑫商品(仕入の工夫)を通して自分たちの地域と他地域とが繋がっていることに気付く。

○産地調べを発表する。  
○どんなことに気を付けて仕入れをしているのか、店長さんのインタビュー記事を読み取る。  
・産地や仕入れ時の工夫と家の人の品物への願いを比較し関連付ける(家庭調査も取り入れる。)

<考えを深める>

⑬⑭⑮店の宣伝広告のチラシを作り、店の工夫や努力を振り返りながら確かめることができるようにする。

○どんなチラシを作ればよいか考え話し合う。  
○どんなスーパーの工夫や豆腐屋のこだわりを伝えればよいか考える。  
→見出しを考える。  
○完成したチラシを廊下に掲示したり、お店に持って行ったりして掲示してもらう。

<自分の言葉でまとめる>

●体験的な活動の重視 ●見学調査活動を取り入れる。

- ・スーパーで見付けてきたお客さんを集める工夫や努力 55
  - ・豆腐屋で見付けてきたお客さんを集める工夫や努力 57
- 多くの工夫や努力を発見することができた。

→事前の打合せで、豆腐の作り方やスーパーにある施設の説明だけでなく、お客さんを集める工夫や努力、願いについて話してもらうように打合せを行ったことで、短い時間の中で学習のねらいに迫るインタビュー活動が展開された。お茶屋さんやケーキ屋さんに調べに行った児童もいた。

●価値判断や意思決定の場を設定し思考力・判断力を高める。

・左記の発問に対してスーパーは24名、豆腐屋5名だった。  
→どちらで買うかの意思決定をする場面を設定したことは思考を深めるのに有効な手だてだった。意志決定や価値判断すること理由や根拠を考えることにつながった。今後の学習で、お店と自分の生活との関わりについて考えさせる必要がある。「それぞれのお店にはそれぞれのよさがある。」「お店に行ってお客さんにお店選びの理由を聞いてみたい。」という発言があった。

●言語活動の重視 ●意見の交流

→討論の手法を取り入れ、自分の立場を明確にしてから意見の交流を行った。自分の立場についての根拠や店のよさについて書いていた。見学して調べてきた事を一覧表にして教室に掲示したり、ノートに貼らせたりしたことにより、店の工夫や努力が振り返りやすくなり、自分なりの考えをもつ有効な手だてとなった。また討論の前に、考えを深めるために同じ立場の人同士で話し合い、考えを補足したり、反対意見を考えたりする活動を設定した。

●思考を高める。出された意見を比較関連付ける。

・お店の工夫→(なぜその工夫をしているのか、)  
矢印を用いて、見学して見付けてきた事と理由や根拠を関連付けながら板書をした。第2時間目に記録しておいた「お家の人が品物選びで気をつけている事」表を提示し、「お店の工夫」と比較させた。「お店の工夫」は、「消費者の買い物への願い」と一致することに気が付いた。また専門店が長く地域で続いている理由が、保護者の商品選びで気を付けていることと関連していることにも気が付くことができた。

●体験的な活動の重視 ●社会的事象を比較関連付ける。

- ・やっぱり思ったとおり、店を選んで買い分けている。
- ・それぞれの店に良さがある。

→実際に自分たちが考えたことをお客さんに聞きに行く場面(VTRに録画)を設定したことにより、前の時間の、「それぞれの店によさがある」という考えを検証することができた。

●比較関連付けることを通して、思考力を高める学習活動

- ・商品の仕入れでもお店の工夫とお客さんの品物への願いはつながっていることが分かった。仕入れる産地にも気を付けている。
- ・お客さんのほしい商品をお店は仕入れている。
- ・無駄の出ないように、仕入れていることや日本中や世界中から商品が届いていることが分かった。

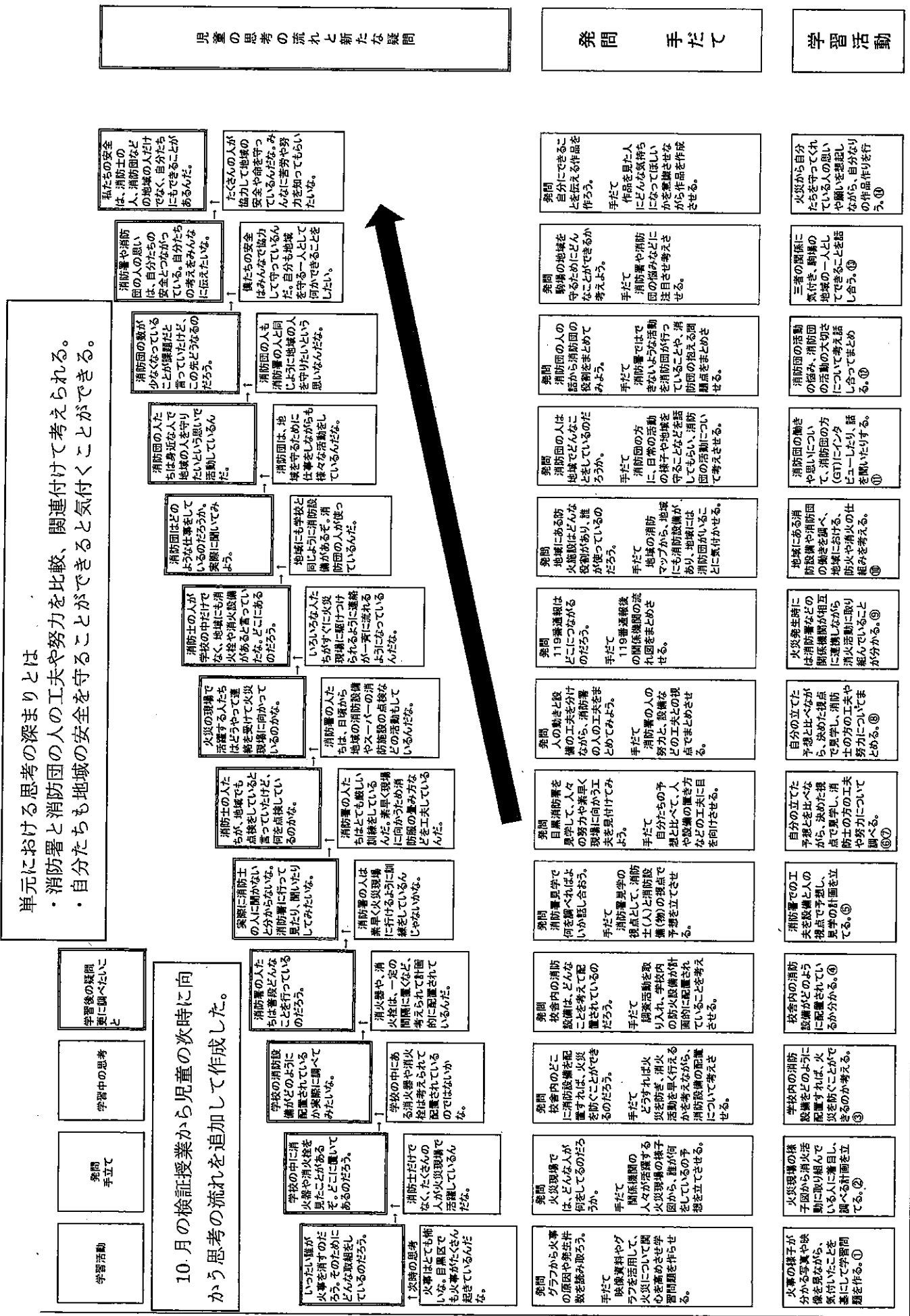
→消費者(家の人)の買い物への願いの表を提示し、店の工夫や努力と一致していることを理解し、思考を高めることができた。

●考えを表現する場の設定

●各自が自分で店長の立場になり、まとめる場を設定する。  
・スーパーの店長や豆腐店の店長になりきり、お客さんに工夫を伝える。  
・「三河屋豆腐店のこだわり」「スーパーの工夫」という言葉を取り入れて書いていく。  
→店長になりきり、お客さんに向けたポスターやチラシづくりを行った。設定や伝える対象を明確にしてから活動に取り組むことができた。また、自分とは異なる立場に立って考えることを通して、地域の事象を自分のこととして捉えることができた。

自分の言葉で表現する

(1) 児童の思考の流れ図



(2) 実践記録

段階	ねらい	○主な学習活動	●学習活動の工夫・児童の反応 (波線は知識や概念の構造図) (直線は思考の流れ図)
自分の考えをもつ	①火事の様子についての資料(映像、グラフ)を見て火災の恐ろしさに気づき、火災を防ぐためや消火についての関心を持ち、学習問題を作る。	○火事の様子分かる写真や映像を見ながら、気付いたことを話し合い、火災の恐ろしさについて考える。 ○火災現場で働く人の様子を話し合い、学習問題を設定する。 <自分の考えをもつ>	●意外性のある教材の提示 ・火災は、とても恐ろしいことが分かった。放火が火災の原因の中で1位だったことに驚いた。 ・火災現場には他にどんな人たちがいるのだろう。 →火災の映像を見る視点として、人の動きに注目させたことで、消防士以外の消防団や、警察の人にも注目が向けられ、次時につながる疑問が出た。
	火災から私たちを守るために、どのような人たちがどんな取り組みをしているのだろう。		
	②学校が火事になった場合どうやって火を消すのか、学校はどのようにして火災から守られているかについて、校内の消防施設や消防署の働きについて調べる計画を立てる。	○火災現場の様子図から誰が何をしているのか予想する。 ○どのような取組をしているのか調べる計画を立てる。 <自分の考えをもつ>	●図の読み取りを通して、自分なりの考えをもつ。 ・火災現場には消防士のほかに消防団の人や、ガス会社の人達が連携していることが分かった。 ・私たちの教室の前には消火器があるから、学校の中にも火を消したり守ったりしてくれるものがあるのではないか。 →火災現場の様子の中に消防団の人や電機会社の人を意図的に表すことによって、児童の追究意欲が向上した。
考えを深める	③学校の消防施設の配置を予想し、配置の意味を考える。	○学校内の消防設備をどのように配置すれば火災を防いだり、消火したりできるのか考える。 <自分の考えをもつ> ○配置の意味を考えて、話し合い、考えを修正したり、追加したりする。 <考えを深める>	●身近な教材の提示●視点が明確な話し合い ・学校には、いろいろな消防設備があることを知った。そして、均等に置いたり、火事起きやすいところには二つくらい置いたりして、火事防ぐために考えられていると思う。 ・学校の中には、消火器だけでなく、煙感知器や防火扉もあることを初めて知った。 →調べる前に予想させることで、調べようとする意欲が高まった。グループの意見を一つに決めさせることで、根拠を明確にして、考えることができた。
	④学校の消防施設を調べ、消防設備が計画的に配置されていることが分かる。	○グループで分担をして、実際に消防設備の配置を調べてまとめる。 ○校舎内の消防設備がどのように配置されているか考える。 <考えを深める>	●調査活動を取り入れ、予想と実際とを比べる。 ●視点の明確な話し合い。関連付けて考える。 ・家庭科室や給食室はたくさんあったので、火を使って火事が起きやすいところには、消火器や消火栓が計画的に置かれていることが分かった。 →調べる前に予想したことで、考えを確認しながら調査することができ、自分の考えに自信をもつこともできた。
	⑤消防署の人の工夫を予想し、調べることを明らかにして、見学の計画を立てる。	○見学時の視点を決める。 ・消防署で出勤がないときの活動について ・消防署から素早く出勤するための工夫について ○素早く現場に向かうために取り組んでいることを予想する。 <自分の考えをもつ>	●前時からの疑問●調べる視点の明確化 ・出勤していない時は何をしているのかな。日頃から訓練をしているのかな。 ・服をできるだけ早く着られるようにしていると思う。 →見学先の消防士の方に、素早く現場に向かうために工夫していることや、日頃の訓練の様子、困っていること、思いについて話をさせていただくよう打合せを十分に行った。
	⑥⑦目黒消防署の見学を通して、消防署の人が素早く現場に向かい、迅速な対応ができるよう工夫していることや、火災防止に努めていることを調べることができる。	○自分の立てた予想から、消防士の方がどうして素早く現場に駆けつけられるかを調べる。 ○インタビューを通して、消防士の方が困っていることや消火活動中の思いについて調べる。 <考えを深める>	●体験的な活動の重視●見学調査活動を取り入れ、実際の様子を見たり、インタビューしたりする。 ・厳しい訓練をしているから、人を守ることができるんだな。 ・服の置き場を決めていたり、オリジナルのマップを作ったりして、消防士の方が工夫していることが分かった。 →見学の視点を確認することで、消防署の人の工夫や努力についてのインタビューを行うことができた。
	⑧見学で分かった消防署の人が工夫や努力していることを、人の動き(努力)、設備・道具(工夫)の視点でまとめる。	○見学を基にして、調べた視点別に工夫や努力をまとめ、消防署の人の思いや、どうして素早く現場に駆けつけられるのか考える。 <考えを深める>	●視点を明確にした話し合い。自他の意見を比較したり、関連付けたりして、消防署の人の工夫と思いの2点でまとめる。 ・自分では気付かなかったけれど予想以上に工夫があった。 ・見学中に放送が流れていたけど、あれは119番の電話かな。

<p>⑨火災発生時には消防署と関係機関が相互に連携しながら消火活動に取り組んでいることが分かる。</p>	<p>○119番の通報からの人々の連携方法や動き方について考える。          &lt;自分の考えをもつ&gt;          ○見学で聞いた関係機関同士結び付きを考える。          &lt;考えを深める&gt;</p>	<p>●視点を明確にした話し合い。自他の意見を比較し、関連付ける。</p> <p>・いろいろな機関が協力できるように連絡の仕方も工夫されていることが分かった。          ・できるだけ早くたくさんの所に連絡ができるようにすることが大切だと思った。</p> <p>→119番が通報されたらどのような順番で連絡がいくのかを話し合わせる中で、できるだけ早く連絡が回ることが大切だということを考えることができた。</p>
<p>⑩地域には、消防団や消火栓、防火水槽など人々を火事から守る設備や消防団があることに気付く。</p>	<p>○身近にある消防設備や消防団の働きを調べ、地域における防火や消火の仕組みを考える。          &lt;自分の考えをもつ&gt;</p>	<p>●地域にある教材を通して自分のこととして捉えやすくさせる。</p> <p>・地域にも消火器や消火栓があることが分かった。          ・消防士と消防団は同じようなことをしているけど、どんな人がやっているのか疑問に思う。</p>
<p>⑪駒場地域の消防団は、地域を守るために様々な活動を行っていることが分かる。</p>	<p>○消防団の方（GT）にインタビューしたり、話を聞いたりして、消防団の働きや思いについて調べる。          ○消防団数のグラフから消防団員が年々減少していることを読み取る。          &lt;考えを深める&gt;</p>	<p>●見学調査活動を取り入れ、実際の様子を見たり、インタビューしたりする。●比較関連付けたグラフの読み取りで思考を深める。</p> <p>・近所の〇〇さんが消防団にいてびっくりした。          ・消防団の人は消防士の人と同じように厳しい訓練をしていることを初めて知った。</p> <p>→消防署と消防団の比較ができるように、活動内容や思い、困っていることを話していただくよう打合せを十分に行った。また、身近な人が消防団であることから、より一層、自分のこととして捉えられた。</p>
<p>⑫消防団の消火活動や防火活動についてまとめ、地域を守ろうとする消防団の思いに気付く。</p>	<p>○インタビューを基にして、消防団の工夫や努力、消防団の人の思いについてまとめる。          &lt;考えを深める&gt;</p>	<p>●既習の想起●学習履歴が分かる掲示</p> <p>・消防団の人も消防署の人も地域を守りたいという気持ちで取り組まれていて、同じ気持ちなんだと思った。          ・消防団の人数がそのまま減り続けると、いつかなくなるのではないかと心配になった。</p> <p>→児童は、既習学習の掲示を見ながら、消防署と消防団の人の思いや願いを関連付けて考えることができた。</p>
<p>⑬これまでの学習を生かして、駒場地域の一員として何ができるか考える。</p> 	<p>○自分たちが地域のために何ができるか、自分たちがやるべきことや、できることについて考える。          &lt;自分の考えをもつ&gt;          ○地域の安全を守ることにについて、グループで話し合い意見を一つにする。          &lt;考えを深める&gt;          ○考えが変わったことや、友達の見解から深められたことを書く。          &lt;自分の言葉で表現する&gt;</p> 	<p>●視点を明確にした話し合い。意見を一つにまとめる中で自他の意見を比較し、関連付け、思考を深める。</p> <p>・今日の学習を通して、自分たちにもできることがあると思った。          ・僕自身も消防団も消防署もみんなできることがあって、みんなで地域を守っていくことが大事だと思った。          ・私が描いたポスターを見て、地域の人が防火意識をもってくれたらうれしいな。</p> <p>→児童が考える際には、消防団と消防署の人の願いに対して何ができるか関連付けて考えることができた。          また、考えを深めるために、グループで一つに絞ることと、「今できること」の視点で考えさせることで、相手を納得させようと根拠をもって伝え合うことができた。          自分の言葉で表現する場面では、書く活動を行った。児童のノートには、地域の消防設備の位置を知らせたい、道路に自転車を置かない、消防団の活動を知らせる等が書かれており、地域の社会的事象を自分のこととして捉えている姿が見られた。</p>
<p>⑭学習してきたことを作品などにまとめる。</p>	<p>○火災から自分たちを守ってくれている人の思いや、願いを想起しながら、作品作りを行う。          &lt;自分の言葉で表現する&gt;</p>	<p>●習得した知識や概念をキーワードにして適切に用いたまとめ</p> <p>→児童は消防署や消防団などの人が協力して地域を守っていることに気付くことができ、ポスターとチラシから選択し、何を伝えるのかを明確にしてから作品作りに取り組むことができた。消防団の人が自分たちが知っている地域の人だということが、みんなを守っていききたいという思いにつながった。</p>

考えを深める

自分の言葉で表現する

## VI 成果と課題

### 1 研究の成果

#### (1) 指導計画を作成するための工夫

##### ア 児童に獲得させたい中心概念の明確化・・・「知識や概念の構造図」の作成

知識や概念の構造図を作成し単元の何時間目に、どのような知識を獲得させるのかを、事前に整理したことにより、1時間ごとの具体的知識を確実に捉えさせながら、中心概念に迫ることができた。検証授業では児童が身に付けた知識を活用して、課題を考えたりノートにまとめたりする様子が見られた。また、知識や概念の構造図を作成したことにより、地域の社会的事象と自分との関係に気付くためには、どんな知識を習得して、どの社会的事象の特色や相互の関連について考えるのかを学習計画を作成する時点で位置付けることができた。

##### イ 知識や概念と思考の流れの関連付け・・・「児童の思考の流れ図」の作成

学習計画を作成する前に、1時間ごとの思考が深まった様子を明確にしたことにより、思考する場面において、効果的な発問や手だてをとることができた。第3学年の検証授業では、思考の流れ図を用いたことにより、どの観点で調査活動を行うとよいのか、どの事象と事象を比較・関連付けて思考を深めていくのかを整理することができた。研究が進むにつれて、思考は獲得された知識から生まれるものであることに気付き、思考面だけを独立して一覧表にするのではなく、知識や概念の構造図と思考の流れ図を一体化させて表すようになり、回を重ねるごとにによりよい形になるようにした。

#### (2) 自分なりの考えを深めながら表現するための学習活動の工夫

まず、自分なりの考えを深めながら表現するための学習活動について、次のように分科会で設定することができた。単元や1時間の学習サイクルを「自分の考えをもつ。」→「考えを深める。」→「自分の言葉で表現する。」と設定し、特に「考えを深める」学習場面では、地域の社会的事象と自分との関係に気付かせるために、調査活動や資料の読み取りにより得た知識を活用して考える場面や意思決定をする場面での思考の深まりを実感でき、活動の重要性を認識することができた。まとめの場面では他者の立場に立つことや自分が地域のためにできることを考える学習活動を設定したことにより、地域の社会的事象を自分のこととして捉え、考えを深めながら表現することができた。

### 2. 研究の課題

#### (1) 思考の流れ図の簡素化

思考の流れ図を用いて、児童の思考の流れと深まりをあらかじめ整理することができたものの、構造図を分かりやすく表現することができなかった。今後は思考面だけを独立して一覧表になるのではなく、知識や概念の構造図と関連させて思考の流れ図を作成し、毎時間ではなく、「知識」・「学習活動」・「発問や手だて」・「思考の深まり」のポイントとなる時間のみ作成していく。また、地域の社会的事象を自分のこととして捉え、考えを深められた児童とは思考の流れ図に設定した児童像だけではないと考えられる。児童の考えをどう見取るのか、評価の観点で研究を継続していきたい。

#### (2) 地域の社会的事象を自分の事として捉えることの難しさ

自分なりの考えを深める場面の学習活動の工夫を行ったが、児童が、自分との関わりで地域の社会的事象を捉えられるまでには至らなかった。原因としては、研究仮説に「児童が地域の社会的事象と自分との関係に気付き」ということを設定していたが、自分との関係に気付いた児童とは、どのような児童なのかを具体的に設定することができていなかった。研究をまとめる段階になり、中心概念に到達した児童は、地域の社会的事象を自分のこととして捉えられている児童であると理解できた。今後も地域の社会的事象を自分との関わりで捉えられる指導方法の研究を継続していきたい。

## 社会的事象を広い視野から捉え、学び合いを通して自らの考えを深めながら表現する児童を育てる指導の工夫

### I 主題設定の理由

第5学年及び第6学年の社会科では、それぞれ我が国の国土と産業に関する内容や我が国の歴史と政治、国際理解に関する内容を取り上げ、中でも能力に関する目標においては、社会的事象の意味を考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにすることを共通して掲げている。

本分科会が行った、上記の目標に関連した実態調査では、約6割の児童が、考えたことを発表することに苦手意識をもっていることが分かった。その要因としては、表現する内容に自信がもてないこと、また、考えを表現し合うことのよさを実感できていないことなどが挙げられる。背景には、調べたことの発表だけで終わっている授業が多く、多様な考えを交流する経験が少ないことが考えられる。

そこで、自らの考えをもたせ、考えを表現し合うよさを実感させ、考えを深めさせるためには、次の2点の指導の工夫が必要と考えた。

第1に、身に付けた知識、概念や技能などを活用し、社会的事象を広い視野から捉えさせる指導の工夫である。「社会的事象を広い視野から捉えさせる」とは、これまでに学んだことや経験と関連付けて考えさせること、過去・現在・未来という時間軸の幅を広げて考えさせること、立場による捉え方の違いを踏まえて考えさせることを示したものである。このような社会的な見方や考え方を身に付けさせていくことで、自分の考えをもち、考えの相似点を実感し、表現し合うよさを味わいながら、自分の考えを深めることができると考えた。

第2に、学び合いを通して自らの考えを深めながら表現させる指導の工夫である。「学び合いを通して自らの考えを深めながら表現させる」とは、考えたことを自分の言葉でまとめ、考えの根拠や解釈を他の人に伝えることにより、更に考えを深めさせていく学び方を示したものである。表現する時には、考えの根拠を明確にして、相手に伝えることが大切である。そのために、「学び合い」は欠かせないと考えた。互いに考えを伝え合うことは、自らの考えをより強く認識したり、新たな考えを生み出したりするきっかけとなり、結果として、表現し合うことのよさを実感することができる。

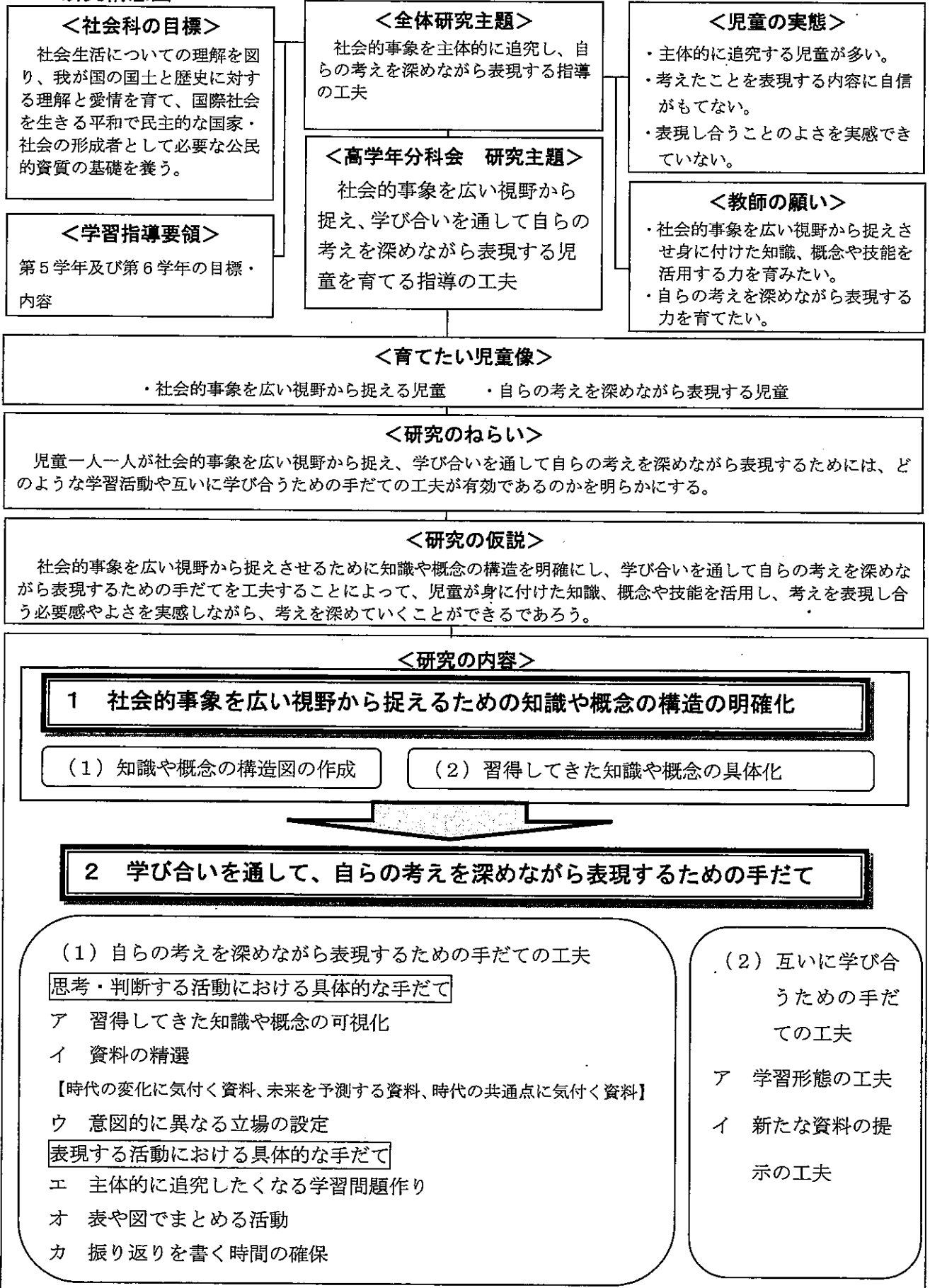
以上のことを踏まえ、高学年分科会では、社会的事象を広い視野から捉えさせ、学び合いを通して自らの考えを深めながら表現する児童を育てることを目指し、研究主題を設定した。

### II 研究の仮説

社会的事象を広い視野から捉えさせるために知識や概念の構造を明確にし、学び合いを通して自らの考えを深めながら表現するための手だてを工夫することによって、児童は身に付けた知識、概念や技能を活用し、考えを表現し合うよさを実感しながら、考えを深めていくことができるであろう。



### Ⅲ 研究構想図



#### IV 研究の内容

##### 1 社会的事象を広い視野から捉えるための知識や概念の構造の明確化

###### (1) 「知識や概念の構造図」の作成

小学校学習指導要領解説社会編（平成20年6月）によると、「社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力や課題を探究する力を育成する観点から、各学校段階の特質に応じて、習得すべき知識、概念の明確化を図るとともに、コンピュータなども活用しながら、地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視する方向で改善を図る」と示されている。

中央教育審議会答申（平成19年11月）においては、「自ら学び自ら考える力の育成」といった「生きる力」の理念は、基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視した上で、思考力・判断力・表現力等をはぐくむことを目標としている」とある。また、中央教育審議会答申（平成20年1月）では、「広い視野から地域社会や我が国の国土に対する理解を一層深め、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けることを重視して改善を図る」と示されている。

これらのことから、基礎的・基本的な知識を問題解決的な学習などの中で、児童に確実に身に付けさせたいと考えた。そして、社会的事象に関する用語や語句を知識として身に付けさせるだけでなく、習得してきた知識を比較したり関連付けたり総合的に考えたりする力を育てたいと考えた。

社会的事象は、様々な知識で構成されている。そのため、社会的事象から知識を精選し、その知識の関連性を明確にする必要があると考えた。そして、その関連性を構造図として整理し表すことによって、教師が確実に習得させるべき基礎的・基本的な知識を明らかにすることができると考えた。また、児童が学んだことや経験と関連付けて考えるなど、広い視野から社会的事象を捉えさせたい。教師が構造図を基に学習に必要な知識を提示したり、発問・助言したりすることによって、「前時までに学んだことは何か」「本時にも生かせる知識は何か」などを児童が主体的に考えることができると考えた。

###### (2) 「習得してきた知識や概念」の具体化

本分科会では、社会的事象に関する知識を「中心概念」「具体的な知識」「用語・語句レベルの知識」の階層に分けることとした。

さらに、三つの階層の下に、「習得してきた知識や概念」の階層を設けた。これは、児童に、前単元（小単元）までに学んできた知識や概念を土台として、本小単元と関連付けて考えさせるためである。前単元（小単元）までに学んだことと本小単元で捉える社会的事象を関連付けて考えることによって、児童は共通点や相違点に気付き、さらに、社会的事象を広い視野から捉えることができると考えた。

児童が、習得した知識や概念を基に、社会的事象について考えたことを説明したり、自分の考えをまとめたりできるようにしたい。そのために、「習得してきた知識や概念」を知識や概念

の構造図に位置付け、発問・助言などの具体的な手だてを考えることによって、社会的事象を広い視野から捉えることができるようにしたい。

【知識や概念の構造図 例：第6学年「江戸の町人文化と新しい学問」】

【学習指導要領との関連】  
 ○第6学年の目標（1）（3）  
 ○内容（1）  
 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。  
 カ 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことが分かること

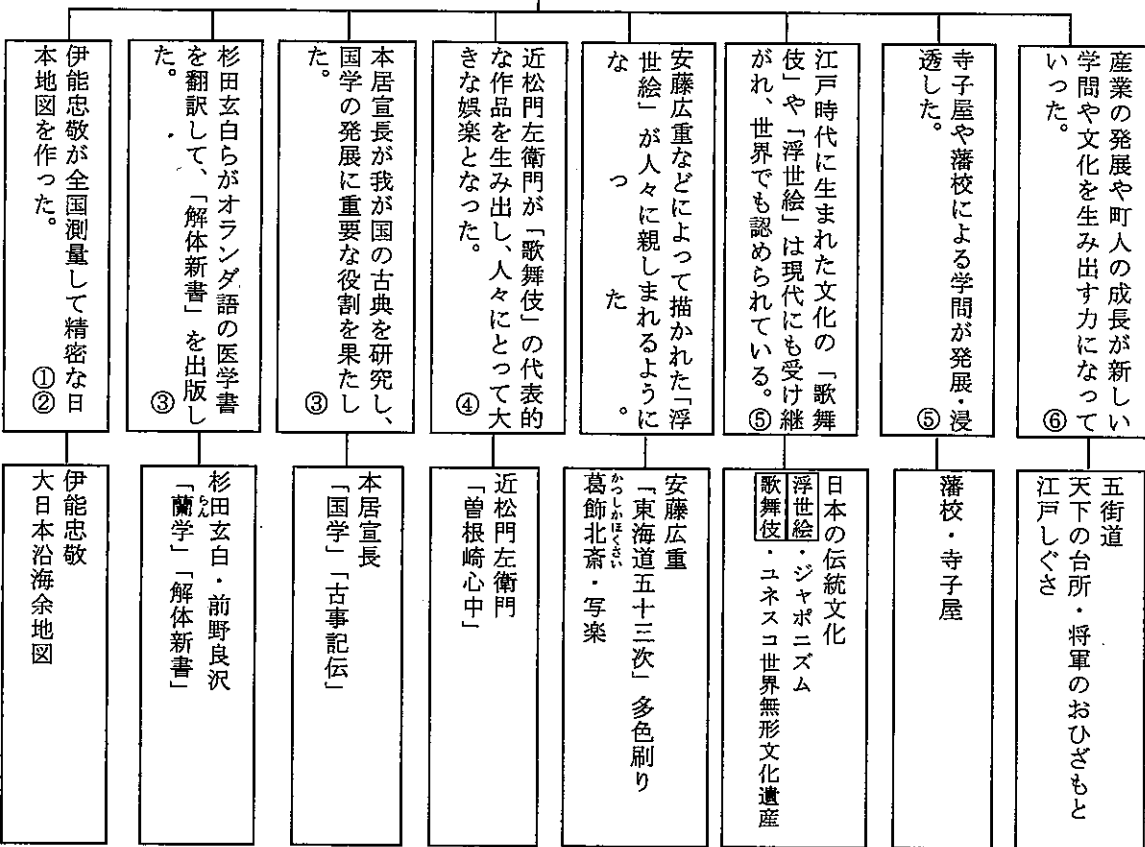
【中心概念】

社会が安定するにつれて、歌舞伎や浮世絵などの文化が町人の間に広がり、国学や蘭学などの新しい学問が起きた。

⑦⑧⑨

まとめる

【具体的知識】



【用語・語句レベルの知識】

つかむ 調べる

【習得してきた知識や概念】

○足利義満が建てた金閣、足利義政が建てた銀閣、雪舟によって書かれた水墨画など、今日の生活文化に直結する要素をもち、武士中心の室町文化が生まれたこと。  
 ○参勤交代制度による街道の整備、鎖国によるキリスト教の禁止や海外との貿易の統制、武士を中心とする身分制度の確立が江戸幕府の政治を安定させたこと。

## 2 学び合いを通して、自らの考えを深めながら表現するための手だて

### (1) 自らの考えを深めながら表現するための手だての工夫

自らの考えを深めるためには、習得した知識や概念を比較・関連付け・総合しながら自分の考えを構築し、自分の言葉で互いに伝え合うことが重要であり、そのような活動を指導計画の様々な場面で展開していく必要がある。このように思考・判断・表現する活動を一体として捉え、思考・判断する活動、表現する活動にそれぞれ具体的な手だてを工夫し、それらを学び合いを通して行うことで、自らの考えを深めながら表現することができると考えた。

思考・判断する活動における具体的な手だてを以下のように設定することで、広い視野から社会的事象を捉えることができると考えた。

ア「習得してきた知識や概念の可視化」については、「知識や概念の構造図」を基にして、児童が学んだことや経験したことを、提示する。

イ「資料の精選」については、時代の変化に気付く資料、未来を予測する資料、時代の共通点に気付く資料などを精選する。

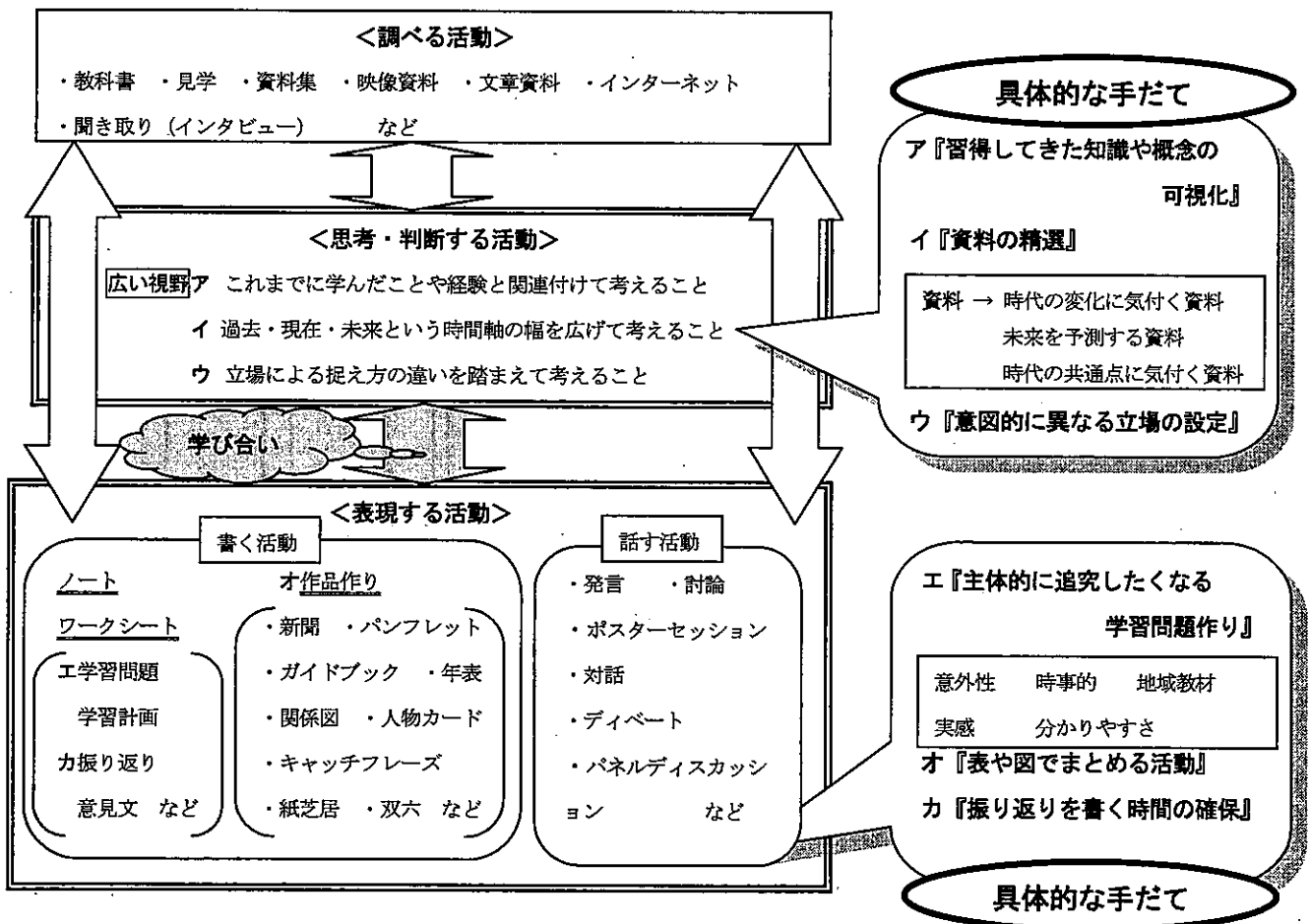
ウ「意図的に異なる立場の設定」については、一つの立場ではなく、意図的に異なった立場を設定し、様々な視点から社会的事象について考えさせる。

さらに、表現する活動における具体的な手だてを次のように設定することで、表現する活動の充実が図られると考えた。自らの考えを深めるために、その考えや根拠を明確に可視化する活動は欠かせないと考え、表現する活動の中でも特に書く活動に重点を置いた。

エ「主体的に追究したくなる学習問題作り」については、学習問題を作る際、意外性、時事的な内容、地域教材、実感として捉えやすいもの、そして児童にとって分かりやすい内容にする。

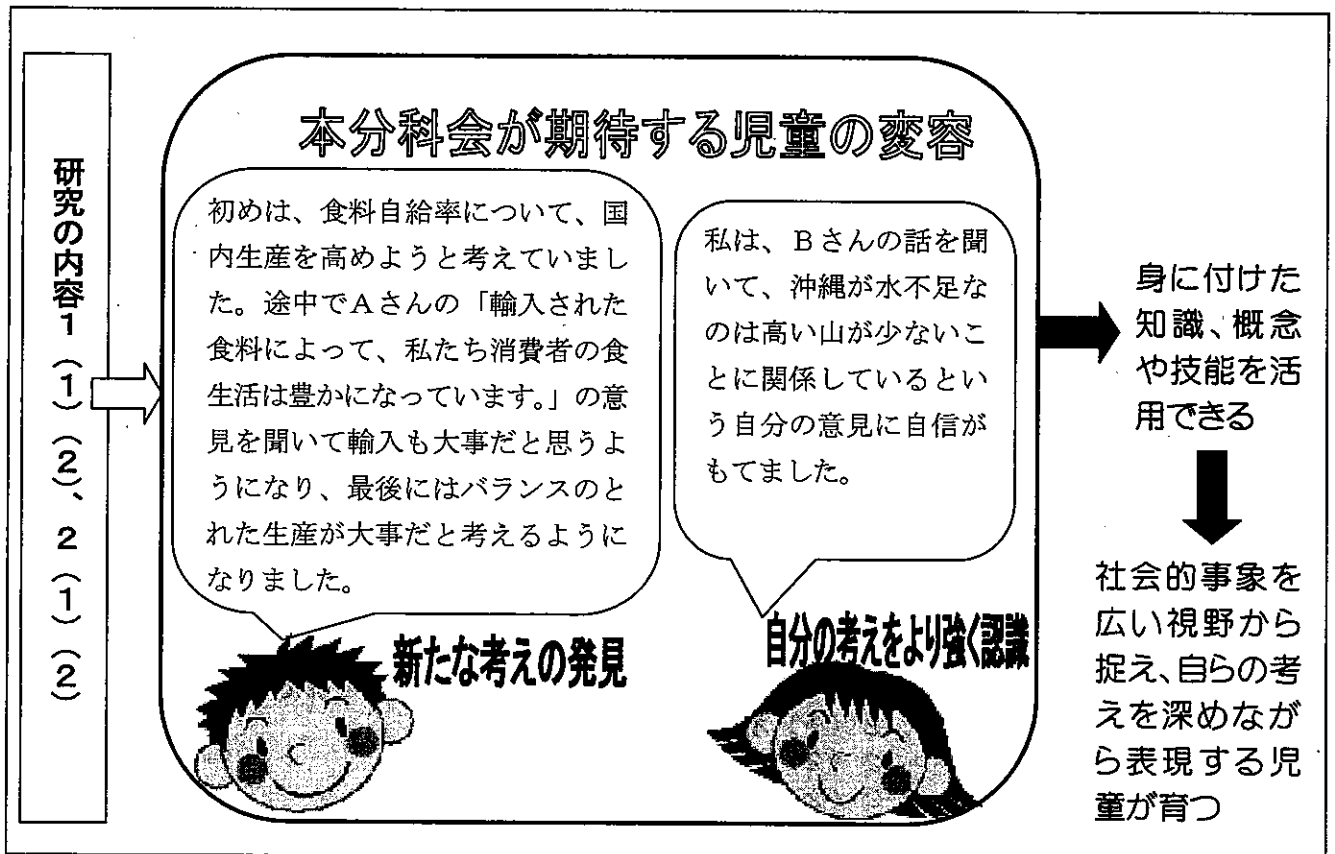
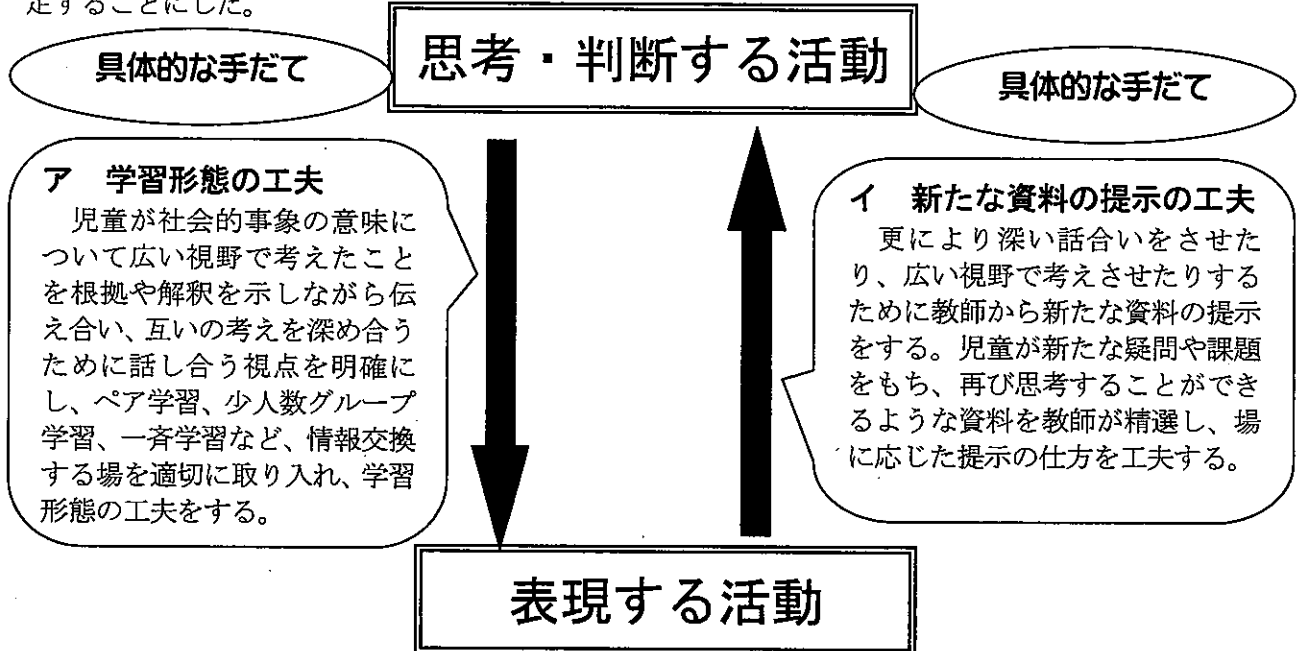
オ「表や図でまとめる活動」については、項目同士の関わりを関係図にまとめたり、付箋を使って表にまとめたりする活動を取り入れる。

カ「振り返りを書く時間の確保」については、言語活動を通して思考の変容を可視化させ、学びを再構成できるようにする。



(2) 互いに学び合うための手だての工夫

「互いに学び合う」とは、調べたことや社会的事象の意味について考えたことを根拠や解釈を示しながら伝え合う活動と捉えた。また、思考・判断する活動と表現する活動を繰り返すことで、学び合いが充実するものと考えた。互いの考えを伝え合うことで、自らの考えを強く認識することができたり、新たな考えを発見したりすることができ、自らの考えを深めながら表現することにつながる。互いの学び合いが成立し、活発に活動が行えるために、二つの手立てを工夫し設定することにした。



V 実践事例 「江戸の町人文化と新しい学問」(8時間扱い)

1 小単元の目標

江戸時代の文化や、新しい学問を担った人物などに関心を持ち、写真や地図などの資料を意欲的に活用して調べることを通して、江戸時代の都市の繁栄や、それに伴う町人の文化や新しい学問の発展、各地の生産力の高まりと流通などの様子を捉えることができるようにする。

2 小単元のイメージ図

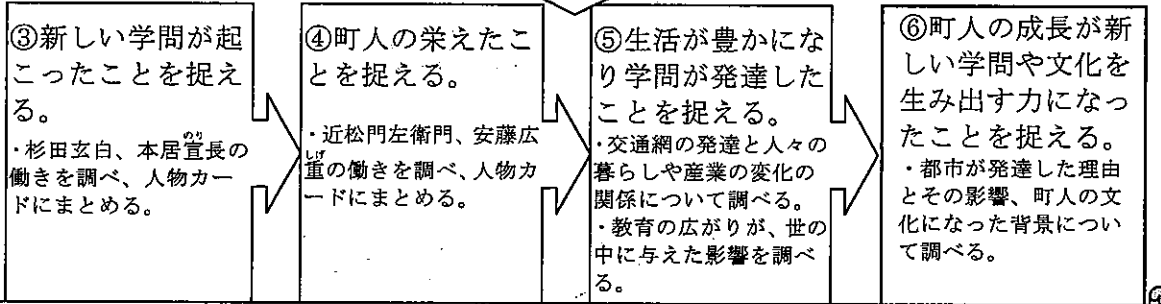
1 社会的事象を広い視野から捉えるための知識や概念の構造の明確化

① 伊能忠敬<sup>なか</sup>の測量を体験し、江戸時代の文化や学問について、興味・関心をもつ。  
 ・伊能忠敬の業績を知り、偉業を実感するために、校庭に地図を描く体験を行う。  
 ・伊能忠敬について調べる。

2 (1) エ 主体的に追究したくなる学習問題作り

② 学習問題を作って予想し、学習計画を立てる。  
 ・江戸時代に他にも学問や文化を栄えさせた人がいることを年表で知る。  
 ・学習問題を作り、予想をして学習計画を立てる。  
 (学習問題) 江戸時代の文化や学問には、どのような特色があるのだろうか

2 (1) エ 主体的に追究したくなる学習問題作り  
 2 (1) イ 資料の精選【未来を予測する資料】



2 (1) イ 資料の精選【時代の変化に気付く資料、未来を予測する資料、時代の共通点に気付く資料】  
 2 (1) ウ 意図的に異なる立場の設定

⑦ 町人の思いや願いを吹き出しに書き、時代の特色について自分なりに考える。  
 ・江戸時代の文化や学問で活躍した人物(5人)を町人の思いや願いを整理し、どのような特色のある時代かを考え、文章で表現する。


2 (1) ウ 意図的に異なる立場の設定  
 2 (1) オ 表や図でまとめる活動

⑧ 学び合いを通して、江戸時代の文化や学問の特色を考える。  
 ・江戸時代の文化や学問で活躍した人物(5人)について、町人の思いや願いを整理し、どのような特色のある時代かを考え、文章で表現する。

2 (1) ア 習得してきた知識や概念の可視化  
 2 (1) オ 表や図でまとめる活動  
 2 (2) ア 学習形態の工夫  
 2 (2) イ 新たな資料の提示の工夫

2 (1) カ 振り返りを書く時間の確保 (\*毎時間の終わりに行う。)

VI 実践の分析【江戸の町人文化と新しい学問】

過程	主な学習活動	児童の反応	手だての考察
つかむ	<p>○伊能忠敬の業績を知り、偉業を実感するために歩測、分度器、方位磁針、ロープを使って校庭の地図を描く。</p> <p>○伊能忠敬について調べる。</p> <p>伊能忠敬のやり方をまねて、校庭の測量をした。</p>	<p>・「校庭の地図を描くことが難しいのに、伊能忠敬は50歳から日本の地図を描くなんてすごいと思う。」と感想を述べた。</p>  <p>・伊能忠敬の吹き出し「自分の夢をかなえたいし、学問が役に立つことを示せるのがうれしい。でも『大日本沿海余地全図』の完成を見られなくて残念だ。」とした。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>2 (1) エ 主体的に追究したくなる学習問題作り</b></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校庭の地図を苦勞して描いたことによって、伊能忠敬の偉業を実感し、学習に対する意欲を高めることができた。</li> <li>・自分たちの地図が未完成だったことと伊能忠敬の地図の完成が見られなかった思いを重ねて、伊能忠敬の思いを共感することができた。</li> <li>・ロシアの攻撃に備えて地図を作ったことにより、学問が幕府の役に立ったということに気付いた。</li> <li>・振り返りを書く時間では、学問の発達に対して「(他にも) どのような学問があったのか。」という疑問をもつことができた。</li> </ul>
	<p>○江戸時代にも学問や文化で活躍した人がいることを年表で知る。</p> <p>○学習問題を作り、予想をして学習計画を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸の文化や学問を発展させた人物の自作の年表を見て、文化と学問の違いを調べ、意味の違いに気付くことができた。</li> <li>・調べてみたいことを「近松門左衛門は何をしたのか。」とした。</li> <li>・学習問題を作る場面で、個人では「どのような学問や文化が栄えたのだろう。」や、他にも「どのような文化があったのだろう。」「どうして学問が栄えたのだろう。」等の疑問があった。</li> <li>・学び合い活動では「どうして、学問や文化が栄えたのだろう。」という友達の疑問に共感した。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>2 (1) イ 資料の精選</b></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代の長さを実感させ、文化と学問に注目をさせるために、自作の等尺年表を使ったことによって、争いがない平和な世の中が続いたという時代の変化に気付き、文化も発達したことを捉えることができた。</li> <li>・1時間目に「どのような学問があるのか。」と2時間目で学習した「文化(近松門左衛門)」を自分なりに関連させて、学習問題を作ることができた。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習問題：江戸時代の学問や文化には、どのような特色があるのだろう。</p> </div>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級全体で話し合い、学習問題を「江戸時代の学問や文化には、どのような特色があるのだろう。」とすることができた。</li> <li>・習得した知識や概念から、武士中心の文化と予想することができた。</li> <li>・平和な世の中と考えた根拠は、教室に掲示されている年表の、平安時代や室町時代と関連させて考えることによって、平和の世の中が続いたからという理由に気付き、江戸時代も同様であると判断することができた。</li> </ul>

<p>○本居宣長、杉田玄白の働きを調べ、人物カードにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本居宣長の業績では、「古事記や源氏物語を研究し、『古事記伝』を書き、国学を発展させた」とし、本居宣長の思いや願いとして「日本人の本来の姿を知れてうれしい。いろんな人に本来の姿を知ってほしい。」と表現した。</li> <li>・杉田玄白の業績は「解体新書を作る。そのためにオランダ語で書かれた『ターヘナルアナトミア』を3年余りかけて翻訳し、『神経』という言葉をつくった。」とし、杉田玄白の思いや願いでは「この解体新書が日本の役に立てばいいな。」と考えることができた。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>2 (1) ウ 意図的に異なる立場の設定</b></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間目の伊能忠敬と4時間目の本居宣長、杉田玄白ら、学問の発展に尽くした人の業績を調べ、関連させることによって、それぞれの人物の努力を理解することができた。</li> <li>・伊能忠敬と杉田玄白の比較、関連付けをしたことで、鎖国下において蘭学が発展していったことについて気付くことができた。</li> <li>・吹き出しに書かせることにより、国学と蘭学との立場の違う人物同士が、世の中の人々に学問を広げ、役に立たせたいという共通の願いがあるということに気付くことができた。</li> </ul>
<p>○近松門左衛門、安藤広重の働きを調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近松門左衛門の業績では、「武士から人形浄瑠璃や歌舞伎の人気作家。町人の姿を描いた作品を残す。」とした。思いについては、「多くの人に人形浄瑠璃、歌舞伎を見てほしい。」と表現した。</li> <li>・安藤広重の業績は「東海道五十三次」を描き、西洋の画家に影響を与えた。」とし「たくさんの人に自分の絵を見て感動してもらえれば、うれしい。」と考えることができた。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>2 (1) ウ 意図的に異なる立場の設定</b></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸の文化を発展させた二人の思いを想像させることにより、歌舞伎や浮世絵などの楽しさを広げようとする共通の気持ちに気付くことができた。</li> <li>・振り返りでは、どうして文化が広がっていったのかという疑問がまとめられていたため、次時への課題につなげることができた。</li> <li>・ゴッホの「タンギー爺さん」「大はしあたけの夕立」やモネの「睡蓮（太鼓橋）」の資料を提示したことによって日本だけでなく西洋でも日本の文化が評価されたことを理解することができた。</li> </ul>
<p>○交通網の発達と人々の暮らしや産業の変化の関係について調べる。 ○教育の広がりが、世の中に与えた影響を調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人々の生活は豊かになり、学問をしたり、娯楽を楽しむようになったりした。」と表現した。</li> <li>・「争いのない世の中になったことで、寺子屋や藩校ができ、よりよい生活を求めて学習できるようになった。」とした。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>2 (1) イ 資料の精選</b> 【時代の変化に気付く資料】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平安、室町、江戸時代の田畑の増加のグラフを提示することで、新田開発が進んだことや農器具が発達したことに気付き、生活が豊かになったことが分かった。</li> <li>・安定した時代の中で、町人や農民も学問を学ぶようになったことを理解した。</li> </ul>
<p>○都市が発達した理由とその影響、町人の文化になった背景について調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「争い事がなく、生活が豊かになって、町人が中心となって、新しい文化が生まれて人々は楽しんだ。」とした。</li> <li>・資料を見て「中村勘九郎は今も活躍している。」という発言があった。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>2 (1) イ 資料の精選</b> 【時代の共通点に気付く資料】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎座の想像図の資料から、現在も活躍する歌舞伎役者の名前が描かれていることに気付き、歌舞伎が現代にもつながっていることを実感することができた。</li> </ul>



○江戸時代の文化や学問で活躍した人物(5人)と町人の思いや願いを整理し、どのような特色のある時代かを考え、文章で表現する。

・「楽しそう！(町がにぎやか)理由は、歌舞伎や人形浄瑠璃、浮世絵などの文化やいろいろな学問が増えた。たくさんの文化や学問ができたから、楽しみが増えたと思う。」「他の時代よりも文化や学問が発達・発展して、便利になった。学問や寺子屋で生活に必要なことを教えてもらい、文化は娯楽の人形浄瑠璃などで、心を穏やかにするものだったから。」とした。

○学び合い活動を通して、時代の特色を整理し、振り返り活動の中で、江戸の文化の特色を広い視野から捉え、自らの考えを深めながら表現する。



・導入時の室町文化の資料と学び合い活動から「町人中心の文化」であることに気付いた。

室町文化の特色を提示

グループで付箋を使って話し合っている様子



バージョンアップ後の資料の写真

学び合いバージョンアップ

☆江戸時代の文化や学問の特色

町人を中心とした文化や学問が発達した。

☆その理由は

大きな争いがなく、町人に余裕ができたことで文化を楽しむことや寺子屋等で、蘭学や国学等いろいろな学問が学べるようになってきたから。

・上記のように自分の考えを深めた。

2 (1) ウ 意図的に異なる立場の設定  
オ 表や図でまとめる活動

・「表や図でまとめる場の設定」では、児童の吹き出しを使ったワークシートを活用したことで、文化や学問で活躍した人物と町人の思いや願いを関連付けて考えることができた。  
・戦国時代と江戸幕府初期と比較し、時代背景とともに、町人の暮らしも変わっていったことや町人中心とした文化が栄えたことを捉えることができた。

2 (1) ア 習得してきた知識や概念の可視化  
オ 表や図でまとめる場の設定

2 (2) ア 学習形態の工夫  
イ 新たな資料の提示の工夫

・「習得してきた知識や概念」の具体化では、既習の資料を提示することで、室町文化(武士や貴族を中心とした文化)と比較し、江戸時代は町人を中心とした文化であることを考えさせることができた(左図)。

・「学習形態の工夫」では、学び合いの時に付箋とホワイトボードを用いて江戸の文化の特色を考えた。付箋を用いてキーワードを集め、整理することで、子供たちが意欲的に活動することができた。学び合い活動を通して蘭学から「外国との交流」、争いのない時代から「平和」という、文化の栄えた要因について気付き、考えを深めることができた。

・自らの考えを深めながら表現するための手だてとして、吹き出しを使ったワークシートを活用した。「バージョンアップをしよう」という投げかけの下全ての児童が前の時間に自分で考えたことと友達の考えを比較・関連付け・総合して、自分の考えを深めることができた。

## VII 成果と課題

### 1 研究の成果

#### (1) 社会的事象を広い視野から捉えるための知識や概念の構造の明確化

「知識や概念の構造図」を作成し、教師が一時間の授業で児童に習得させるべき基礎的・基本的な知識や概念を把握し、学習に必要な知識や概念を捉えさせるために資料を基に考えさせたり、発問・助言をしたりすることができた。また、前単元（小単元）までの既習事項を掲示したり、提示したりする工夫をし、それを想起する発問をすることで、児童は、既習事項と関連付けて考えることができた。さらに、考えたことを表現する学習活動を設定することで、社会的事象を広い視野から捉えることができた。

#### (2) 学び合いを通して、自分の考えを深めながら表現するための手だて

思考・判断する活動における具体的な手だてを講じることで、習得してきた知識や概念を活用して、比較・関連付け・総合しながら考えを深めることができた。

表現する活動における具体的な手だてを講じることで、学習問題が実感として捉えやすいものになり、また表や図でまとめながら考えを可視化し、根拠を明確にすることができた。

学習形態の工夫や新たな資料の提示をすることなど、互いに学び合う手だてを講じることで、友達の意見を聞いて習得した新しい考え方をもつことや自分の考えに自信や確信を深めることができた。

### 2 研究の課題

- ・ 知識や概念の構造図における1時間ごとの具体的知識と用語・語句レベルの知識の精選が必要であった。特に具体的知識を調べたり、理解したりする上で、必要な用語・語句レベルの知識として適切であったか吟味できていなかった。この背景には、具体的知識が明確にされていなかったことがある。1時間ごとの具体的知識を明確にし、その後用語・語句レベルの知識を精選し、それを位置付け、学習を展開していくことが必要である。そうすることによって、児童は具体的知識を理解しやすくなり、中心概念により近づけると考える。
- ・ グループで話し合い活動をする際のグループについては、児童らが主体的に学習を展開したり、互いに協力して充実した話し合い活動を行ったりするためにも、教師が児童の実態を把握し、意図的にグループを構成していく必要がある。
- ・ 学び合いにおいて充実した話し合いをさせるためには時間の確保が重要になる。実際の授業では、十分な確保ができず、考えを深めることができないこともあった。限られた指導時間の中で、どこにどのくらい学び合いの時間を位置付けていくか検討する必要がある。

平成23年度 教育研究員名簿

小 学 校 ・ 社 会

【中学年分科会】

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
台東	石浜小学校	主任教諭	○若林 廣美
目黒	駒場小学校	教諭	吉村 信一
中野	桃花小学校	教諭	遠藤 拓朗
練馬	豊玉南小学校	主任教諭	奥谷 麻里亜
武蔵野	境南小学校	教諭	愛甲 剛
府中	若松小学校	主幹教諭	岡嶋 美保
日野	夢が丘小学校	教諭	神野 幸隆
東村山	大岱小学校	教諭	池田 守

【高学年分科会】

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
千代田	番町小学校	主任教諭	○川田 貴弘
江東	第七砂町小学校	主任教諭	大木 直之
葛飾	北野小学校	主幹教諭	岡崎 崇
国分寺	第一小学校	主幹教諭	大島 伸二
東大和	第八小学校	主任教諭	縦山 雄三

○ 分科会世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課

統括指導主事 宮崎 直人

平成23年度  
教育研究員研究報告書  
小学校 社会

東京都教育委員会印刷物登録

平成23年度第181号

平成24年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6836  
印刷会社 有限会社 シーダー企画